

国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所
〒259-1293 平塚市土屋 2946
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス
Tel. 0463-59-4111 (内線 2200)

物の見方、はかりかた

行川 一郎

日本の人口は1億2711万人(2015年10月国勢調査速報値)。1920年の国勢調査開始以来、初めての減少だそう。5年前の調査より95万人近く減ったとの総務省発表(2016年2月)を知り、数字をはじいたところ何と湘南地域の人口(平塚市+茅ヶ崎市+藤沢市)が消滅してしまったに等しいではないか。『地方消滅』という衝撃的なタイトルの本が記憶に新しいが、言われるまでもなく日本の将来は深刻である。

かつて、あくせくと過密な島国で働く日本人(=自分たち)を自虐的に揶揄する考え方が流行った。ならばたとえば人口が半分の百年前の日本に戻ったら住みやすいだろうか。物事は単純にははかれな。単純化した話はわかりやすいがそこには大抵、裏があり罫が潜んでいる。「人口減少などどうでも良い」という突き放した見方はさらに危険で非現実的だ。広く深く多様な視点で多元的に見、考え、語ることが重要であり必要だという、複雑で深刻な一つの例が人口問題だが、これ以上紙幅を割くことは本意ではない。世の中には多くの課題があり取り組むことさえ容易ではない焦眉(しよび)の事例の一つを挙げたままであり、絡まった糸のような難題を私達は英知で答えを見つけていかなければならないのである。

とはいえ問題に対処するにしても、先人は「三人寄れば文殊の知恵」と宣(のたま)ったがそう容易に答えが見つかるものでもない。ただ、何かと便利な今日、答えらしきものはネット検索ですぐに出てくる。

世の中はバラ色だ。が、これは実に危険ではないだろうか。吟味されたかどうかも未知数の意見や思想や回答や論考が単純にクリックするだけで出てきて、そこに真実があると勘違いしてしまう。慎重な検証を多元的にはかってこそなのに、安易さにかまけてしまう。そのような行為の行き着く先には知性の滅亡しかないだろう。さらにソーシャルメディアの隆盛に伴い首をかしげる意見や思想、考え方が巷に溢れて行方も定まり知らぬ現今になってきている。

デジタル社会は鶴(ぬえ)のような現実世界を手玉に取りインスタントに答えもどきを出してくれるが、そのような便利さを悪だというのならば、原因や責任は使う私達の側にあるだろう。インスタントといえば食品をすぐ連想するが、私達は今では賢くインスタント食品を使いこ

なしているではないか。デジタル社会にしてもその洗礼をくぐり抜けた先で、私達は今まで得ることのできなかつた武器をものにできると信じたい。

辞書の「辞」(辭)は絡まった糸を解きほぐすという会意文字だそうだが、辞書しかり検索しかり、道具を便利に賢く駆使して私達の目的を達成すればよい。BigData時代は真実探求の新時代の到来となりうるだろう。

所員一同、新年度も更なる邁進をしていく所存です。各々にはよろしくお願ひ申し上げます。

(所長/なめかわ・いちろう)





2016 年度における国際経営研究所の活動について



■2016 年度の主な事業活動

- 出版活動 『国際経営フォーラム』の刊行
Project Paper の刊行 他
- 研究活動 各種共同研究プロジェクト支援
- 公開講演会 2 回以上の講演会開催を予定
後援、協賛活動を拡充！
- 地域連携 平塚市との協働事業を推進
- 広報活動 アクティビティを HP で発信
「国経研だより」で組織内外 PR

※今年度も新規共同研究プロジェクト申請がありました。詳細は次号に掲載します。

■2015 年度活動報告

- **出版活動**：共同研究成果報告書(Project Paper)
 - ・Project Paper 33 号 2016. 3. 31 刊
『昭和初期の経営と文化』
—戦前昭和期日本の南洋・南方への商業的進出と貿易— 丹野 勲(代表)
—「心境」と「心境小説」— 広嶋 進(所員)
 - ・Project Paper 34 号 2016. 3. 31 刊
『コーポレート・ガバナンス・コードの
EU 企業による実践に関する研究』
小島大徳(代表)
明山健師(客員研究員)
- **出版活動**：機関誌 国際経営フォーラム 刊行
『国際経営フォーラム』No.26 2015. 12. 25 刊
- ・特集テーマ：創
特集論文 2 篇、査読論文 1 篇、研究論文
2 篇の他、書評、共同研究報告(中間)を掲載
- **地域連携・交流事業活動**：各種後援、協力
 - ・平塚市産業活性化セミナー(第9回) 後援
「できることから始める 6 次産業化」 2015. 11. 19
 - ・平塚市産業活性化セミナー(第10回) 後援
「成功事例から学ぶ社会企業家と 6 次産業化」 2016. 2. 10
- **公開講演会開催**：特集テーマ「アジア」
2015 年度は昨年度に引き続き、特集テーマを「アジア」とし、計 3 回開催しました。
また、SHC 学内講演会の後援も行っています。

■2016 年度研究所所員の構成数(4/1 現在)

- 所員(専任) 46 名
- 特任教員 7 名
- 客員研究員 14 名
- 常任委員 4 名(新規委員 2 名)

※常任委員氏名と担当については次号に掲載します。



2016 年度着任の先生をご紹介します。
今年度は新たに、大田博樹准教授が
所員としてメンバーに加わりました。

公開講演会については「国経研だより」の No. 46 と No. 48 に会の模様を写真とともに紹介しています。

- ・公開講演会(第1回目) 2015. 6. 19
アジアにおける貿易促進と税関—税関職員が語る—
- ・公開講演会(第2回目) 2015. 12. 17
IoT が拓く未来—イノベーションによる新たな価値創造—
- ・公開講演会(第3回目) 2016. 1. 22
引揚げ—終戦直後に大韓海峡を渡った人々に何が起こったのか—

■ご案内

本学の学術研究広報誌
『PROUD BLUE Vol.3』
で国際経営研究所の活動を
紹介しています。



www.kanagawa-u.ac.jp/research/researchers/pdf/proud_blue03.pdf#page=12 ※掲載写真は表紙ロゴの一部分

～

★★★ 編集後記 ★★★

49 号をお届けします。新しい委員のもとで 2016 年度も鋭意、研究所のサポートを充実させていきたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願ひ致します。(国際経営研究所：N)